

# 定例公安委員会開催状況

平成30年10月25日（木）

## 障害者法定雇用者数の充足計画について（警務部）

警務部長から、

障害者法定雇用者数について、法定雇用率2.5パーセント、法定雇用者数23人のところ、現状は実雇用率1.3パーセント、実雇用者数12人であり、不足数は11人となる。

このため充足計画を策定し、目標を平成31年中に障害者11人雇用とした。

目標達成のための取組として、

- 警察行政職員の採用者数の拡大
  - 非常勤職員の任用数及び職域の拡大
- を行う予定である。

旨の報告を受けた。

---

◇ 委員から、「警察行政職員の採用に際して、障害者枠を設けているのか。」との質問があり、警務部長が「設けている。目標達成のための取組として、今後採用枠を拡大するものである。」旨説明した。

## 平成30年度第2四半期（7月～9月）における監察結果について

### （警務部）

首席監察官から、

管区局による総合監察が9月3日から9月5日までの間に行われた。

項目は「リカバリー教養等の推進状況」であり、9月3日に会計課、教養課など7所属、4日に浜松東警察署、5日に本部自動車警ら隊、本部機動捜査隊など3所属が受監した結果、各種監察業務を通じて業務上の問題点等を把握した場合には、問題点に対する対策を講じさせるなど、非違事案等の未然（再発）防止制度を構築していることが良好と認められた。

また、管区局による随時監察が9月25日に富士警察署、9月26日に下田警察署及び伊東警察署において行われた。

受監項目は「適正業務及び非違事案防止対策の推進状況」であり、署表彰規定に「即賞」を明記し、積極的に運用して署員の士気高揚に努めていることが良好と認められた。

県内における総合監察は、7月及び9月に袋井警察署など3所属において行われた。

随時監察は本部所属、警察署、交番など77か所に対して行い、富士警察署御幸町交番、浜松東警察署可美公園前交番、本部高速道路交通警察隊沼津分駐隊に対して監察課長賞を授与した。

旨の報告を受けた。

## 苦情・相談取扱状況（9月中）について（警務部）

首席監察官から、

9月中の苦情取扱いについて、公安委員会宛2件及び警察宛5件を受理し、調査が完了した1件に不適切な取扱いが認められた。これは「交通標識の問合せをしたときに電話を切るなどされた」というもので、調査の結果、警察官の不適切な対応が認められたことから、上司が申出者に説明を行い謝罪したことで苦情申出者の理解を得た。

8月以前に受理した苦情処理状況について、調査済みの1件は適切な職務執行であった。

9月中の相談の取扱状況は2,362件であり、感謝事例は16件、相談を端緒とした検挙事例は8件あった。

感謝事例として、東名高速道路上において交通事故を起こした運転者を安全に避難させた本県警察学校の初任科生に対して、当該運転者から感謝の手紙が寄せられたものがあつた。

旨の報告を受けた。

## 常葉大学との包括協定の締結について（生活安全部）

生活安全部長から、

県警察と常葉大学が相互に連携・協力のもと、相互の専門的知識を活用し、地域貢献できる人材の育成を図ると共に、安全・安心な地域社会の実現に寄与することを目的として、包括協定を締結する。

協定締結者は本部長及び常葉大学学長江藤秀一氏となる。

協定内容は、

- 防犯ボランティア活動、少年非行防止、立直り支援、交通安全啓発活動、その他安全・安心な地域社会の実現に資する活動に関する事
  - 連携事業の策定と円滑な推進に関する事
  - 人材育成に関する事
  - 相互の専門的知識の活用と情報提供に関する事
  - その他両者が必要と認め合意した事項に関する事
- である。

協定書締結式について、11月1日午後1時30分から、常葉大学水落キャンパスにおいて、警察側は本部長、本職ほか生活安全部幹部、大学側は常葉大学学長、地域貢献センター長、副地域貢献センター長が出席して行われる。

旨の報告を受けた。

## 平成30年静岡県警察殉職警察職員慰霊祭の開催について（警務部）

警務部長から、

本年11月6日午前10時から、警察学校講堂において、平成30年静岡県警察殉職警察職員慰霊祭を開催する。

旨の報告を受けた。

## 南海トラフ巨大地震を想定した通信対策訓練について（情報通信部）

情報通信部長から、

職員の事態対処能力の向上を図るため、本日、南海トラフ巨大地震が発生し、伊豆半島における被害を想定した通信対策訓練を実施することとした。

旨の報告を受けた。

## 11月中の警察学校主要教養計画等について（警察学校）

警察学校長から、

11月中の警察学校の入校者数は、初任科長期課程109人、初任科短期課程47人の合計156人、うち18人が女性となる。10月1日に入校した初任科短期課程は、特別指導期間を経て締めくくりとなる通常点検を行い、警察官としての成長が見られた。

そのほかに、任用科が生活安全及び交通任用科の2課程、専科が取調べ技能、警護、警察緊急自動車運転技能者専科の3課程がある。

主要教養計画は、総務部長訓育（初任科長期、19日）、救急法検定（初任科長期、5日～9日）、介護研修（介護施設）（初任科長期、7日、8日）、ロングトレイル訓練（初任科短期、9日）、実務研修（初任科短期、16日）、介護研修（特別支援学校）（初任科長期、15日、27日）、体育大会（初任科長期・短期、20日）、マラソン大会（初任科長期・短期、21日）である。

トピックとして、初任科長期課程の実務研修を実施した。

また、首席監察官から報告があった警察学校の初任科生に対する感謝事例について、教職員の「いつも心に制服を」という指導を体現したものであり、全初任科生の前で事例を紹介するとともに、学校長賞を授与した。

旨の報告を受けた。

## 報道記者の1日体験入校及び採用内定式の開催について

### （警察学校・警務部）

警察学校長から、

報道記者の警察学校への1日体験入校及び平成30年度採用試験合格者に対する採用内定式を、11月7日午前9時から、警察学校施設において、報道関係者及び採用予定者を対象に行う。

旨の報告を受けた。

- 
- ◇ 委員から、「対象となる報道関係者はどういう方が集まるのか。」との質問があり、警察学校長が、「報道機関の社会部の記者になる。過去機動隊においても体験入隊を開催したことがある。」旨説明した。